

豊島区障害者地域支援協議会 精神障害者包括支援部会主催 ワークショップ

あってよかった！ こんな場所やあんな人 ～豊島区の社会資源を再発見～

この地域で暮らしたい、暮ら続けたいと思っている精神障害のかたを支援しているとき、
“この場所があってよかった”“この人に出会えてよかった”と思ったことはありませんか？
そのような場所や人などの情報をみなさんで分かち合い、豊島区の社会資源を再発見する
ワークショップです。誰もが暮らしやすい地域づくりに向けて、一緒に考えましょう。

対象：精神障害者を支援している
事業者等職員
サービス提供事業者、相談支援専門員、
高齢者総合相談センター職員、CSW、
訪問看護師、民生委員、家族会、生活保護ケースワーカー 等



日時：令和5年11月6日（月）14時～16時
会場：豊島区役所1階センタースクエア（南池袋2-45-1）
内容：①グループワーク 豊島区の社会資源を出し合い、マッピングします
②各グループでつくったマップを共有する

【申込・問合せ先】
豊島区障害福祉課
★申込（メール）★
A0015800@city.toshima.lg.jp
件名「精神障害者支援ワークショップ申込」
本文「ご氏名」「ご所属」「ご連絡先」
申込締め切り 10月27日（金）
★問合せ★
申し込みに関すること 03-3981-1768
内容やその他について 03-3981-1988

こんなひとにオススメです

- ☆豊島区内の資源をあまり知らない
- ★頼れる人や資源を紹介したい
- ☆視野を広げたい
- ★支援者同士でもっとつながりたい



令和5年11月6日
としまセンタースクエア

ワークショップ 報告

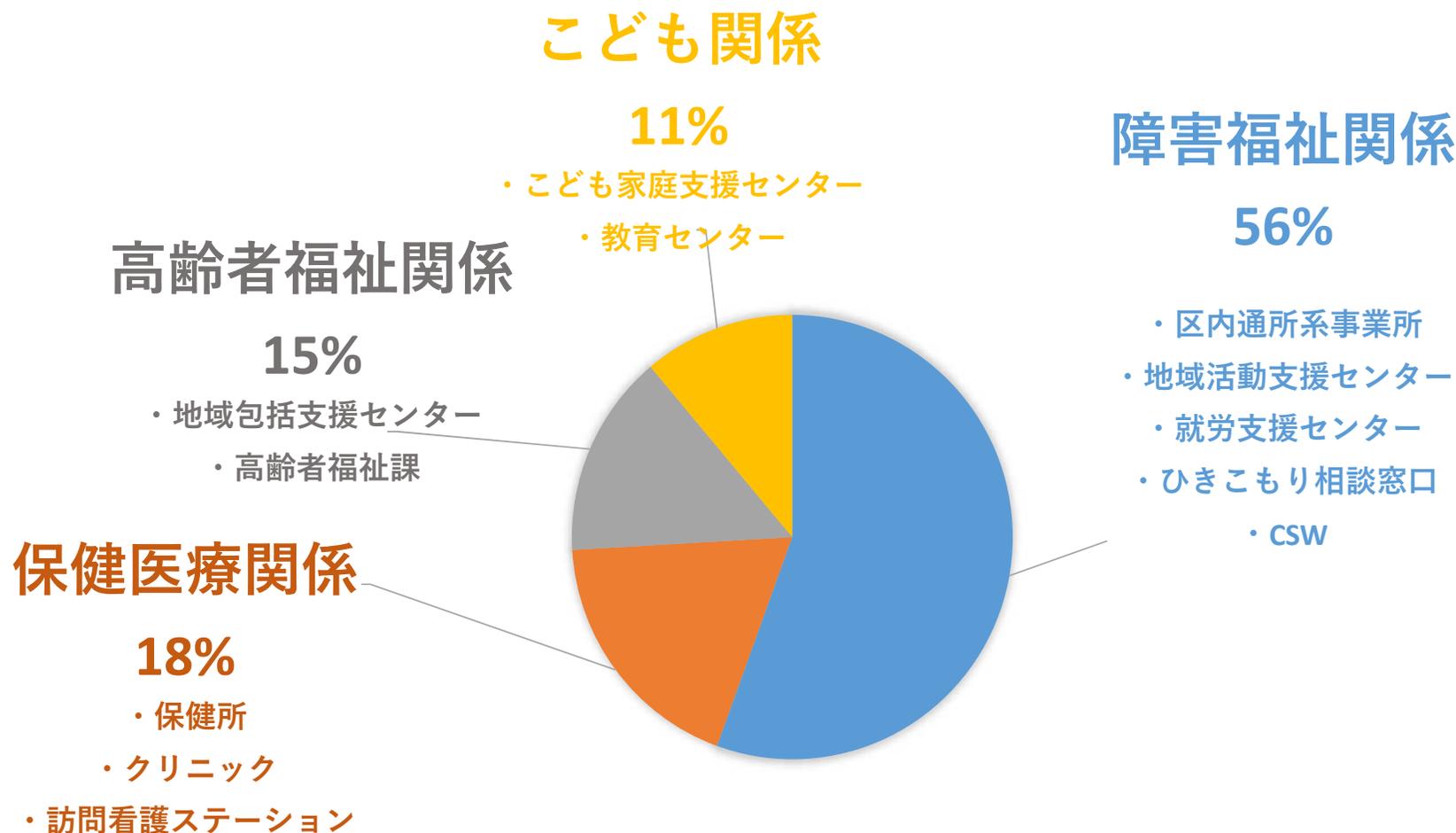
目的

○豊島区障害者地域支援協議会のテーマ、「見直そう・知り合おう・支え合おう わがまち豊島区の障害者福祉」のもと、既にある事業や取り組み等を見直す。

○地域で活動する人々が「知り合うこと」を重視し、リストではわからない活きた資源情報を共有する。

○当事者の声もまじえながら、豊島区の社会資源の再発見と、誰もが暮らしやすい地域への課題を共有する。

参加者の内訳 n=54 各分野からまんべんなく参加者があった



ワークショップに向けて行ったこと

ステップ1

当事者の声集め

- 豊島区障害者就労支援センターを利用している働く障害者（8月～9月）
- ころもまつり（10月）に参加された当事者、関係者
- 家族会や当事者会に参加している方、保健所講演会に参加した方（8月～10月）

【あなたが、辛かった時に助かった支援は？】

【あったら良かったものは？】

【豊島区がこんな町になるといいな（ころもまつり）】

資料

こころまつり

令和5年10月14日 @長崎小学校



付箋で集めた
【声】

ステップ2

カテゴリー化しネーミング



医療・薬

経済・仕事

話を聞いて
くれる人・場所

支援・仲介

生活・住まい

休息

趣味・好きなこと

当日持ち帰り資料
として【当事者の声】すべてを印刷し配布

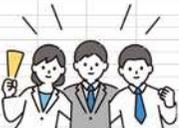


当日のワークの 【お題】とした

【当事者の声】
本日のワークショップ内でお題カード裏面に記載しましたものの全容になります。
こちらは、障害福祉サービスを利用している精神障害者に回答をご協力いただきました
アンケートの結果です。
精神障害者の声をぜひご覧ください。

★アンケートのご協力★
本日は、ご参加くださりありがとうございました。
みなさまのお声を今後の研修に活かしてまいりますので、ご回答をよろしくお願い申し上げます。

回答はこちらからお願います→
締切:11月13日(月)



当日のワーク内容

(東エリア3グループ 西エリア4グループ)

1. **自己紹介** →事業所や自分の仕事の強みを宣伝！

2. 精神障害の方を支援していて困っている、
課題と感じていること →「支援者の課題抽出」

3. **私が知っている地域資源** こんな使い方、あんな人
→「資源活用のヒント」 (次ページ写真)

資料

資料

私が知っている地域資源・こんな 使い方、あんな人

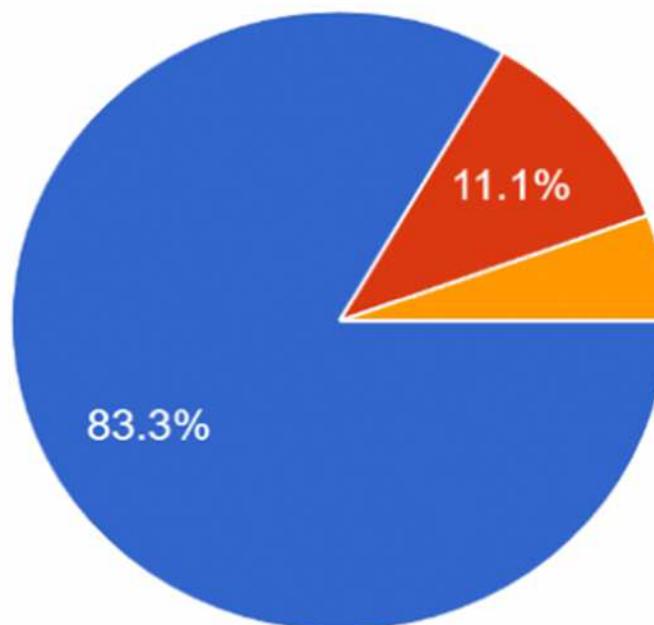


各グループで、お題を2つ選び、地域資源情報、資源の使い方のヒントをマップに落とし込みました。

アンケート結果

ワークショップに参加してみて今後に役立つヒントはありましたか？の問いに8割以上があったと回答

- とてもあった
- 少しあった
- ふつう
- あまりなかった
- なかった



ワークショップに参加してみたの意見・感想 (自由記載欄) 一部抜粋

- 区内の関連機関が集まる機会がなかったためとても良い機会だった。
- 活動先や相談先など知識の幅が広がられてよかった。
- 各々のご経験や支援されている対象の違いによって、これまで具体的にわかっていなかった社会資源について色々と聞いてとてもためになった。
- グループワークで地域の資源について、他分野の方と話し、大変新鮮だった。他分野の視点から見る事がなかなかなく地域の強み等を改めて考えるきっかけになった。
- 知らなかった社会資源について把握できた。その中でも、それぞれの資源で利用しやすい点やどのような時に利用できるかなど、公の情報だけではわからないことも知ることができ、大変勉強になった。今後の支援に活かしたい。
- 専門職ではない人が他にいらっしやらなかった。専門職の熱意に感動した。ボランティアなので専門職ではない。制度の狭間の支援こそ、ボランティアの場になると思う。

今後研修で取り上げてほしいテーマや企画してほしいアイデア等（自由記載欄）

- 今回のWSが毎年、隔年あるなら、相談員（教育センター教育相談）を毎回最低1人ずつ参加させたいと思った。顔つなぎ、網羅的に区内の官民の情報を知るにはピッタリだと思う。
- 今回の企画の継続。テーマや対象を変えておこなっても良い。
- 支援者同士の交流の場が定期的であれば良い。 軽度知的障害、境界知能の支援方法など。
- 引きこもり高齢者等への支援や介入の仕方について、今回の形のようなざっくばらんに話せるグループワークがあれば、ぜひ参加したい。
- 障害者家族支援について
- 事例検討
- 一人ひとりの人生を見据えた長期の地域サポート体制について
- 当事者のかたがおひとり。家族会は参加なかった。専門職以外の人もいれるといいと思った。